

平成 30 年度 (2018 年度)

金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

刑 法

C 日程入試

(注意)

1. 問題冊子 (表紙を含む) は 2 枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。

平成 30 年度（2018 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

問題 判例の立場を踏まえつつ、以下の設例における X の罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く）。

X は、P と共謀して、航空機によりカナダへの不法入国を企てている Q のため、航空会社係員を欺いて、関西国際空港発バンクーバー行きの搭乗券を交付させようと考えた。X は、同空港ターミナルビル内の A 航空会社チェックインカウンターにおいて、A 社係員 B に対し、実際は、バンクーバー行き A 社便の搭乗券を Q に交付し、Q を搭乗者として登録されている P として航空機に搭乗させてカナダに不法入国させる意図であるにもかかわらず、それを隠したまま、あたかも P が搭乗するかのように装い、P に対する航空券および日本国旅券を呈示して、A 社便の搭乗券の交付を請求した。そのため B は、実際に P が搭乗するものと誤信した。X は、航空券の正規料金を支払ったうえで、B から P に対する搭乗券 1 枚の交付を受けた。

A 社は、国際的なテロ対策を目的とした日本政府およびカナダ政府からの要請を受け、搭乗券に記載された者以外の搭乗を禁止することを経営方針として明示しており、カウンター等において本人確認のための手続を行っていた。